

吹田市教育研究大会報告

平成 20 年 9 月 24 日
吹田市教育研究大会
事務局発行

吹田市教育研究大会を 8 月 28 日(木)メイシアターにて開催いたしました。第 2 回目の今年度は、「学校がすき・家庭がすき・地域がすき～地域に根ざした質の高い学校教育の創造～」を大会テーマとし、午前中の基調講演と午後からの 10 の分科会と 15 本の展示報告を行い、吹田市内幼稚園・小・中学校の教職員のべ 1461 名の参加をいただきました。各分科会や展示報告では、各学校園での取組の発信もたくさんいただき、すばらしい吹田市内の学校園の実践を共有化することができました。

多数の皆さんの参加、実践報告、そして会のスムーズな進行にあたってのご協力ありがとうございました。また、アンケートによるたくさんのご意見や感想もたくさんいただきました。次年度以降の企画に生かしていきたいと思ひます。研究大会の各分科会等の様子と皆さんからのアンケート集約の一部を紹介させていただきます。(参加者感想)

基調講演 「今、学校教育に求められるもの - 新学習指導要領の理念 - 」

東京大学大学院教授 市川伸一先生

今までの教育問題と教育改革の変遷を踏まえて、今、子どもたちに必要な学力とはどのような力なのか、そして、その学力をつけるためには、どのように授業を改善していけばよいのか等についてのお話をいただきました。「習得」と「探求」の 2 サイクルの学習のバランスの大切さと、少ない授業時間数の中でどの子にも基礎学力をつけるための「教えて考えさせる授業」の進め方について、具体的な授業ビデオの様子を通してご講演いただきました。

「教えて考えさせる授業」がとても新鮮だった。教え込みでもない、子どもに任せっぱなしでもない授業のヒントになった。子どもの学習意欲を高めるためには、基礎的なことをどれだけ理解できるかにあると思う。そのために教師は自信を持って教えることが必要。その自信は、いかにわかりやすい説明か、工夫された教材にかかっています。



参加者アンケートより

参加者アンケート結果

午前			参加人数	アンケート 回収数	アンケート集計			
					とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった
基調講演（大ホール）			1416	393	18.1%	66.9%	13.2%	1.8%

午後			多数の参加をいただきました。								
展示室			展示・ブース見学				94	26.6%	70.2%	3.2%	0.0%

分科会前半	大ホール	学力向上	533	178	43.1%	54.6%	2.3%	0.0%
	中ホール	特別支援教育	340	63	36.2%	62.1%	1.7%	0.0%
	小ホール	生き生き元気アップ	164	60	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	集会室	学校・学研から	131	54	43.5%	52.2%	4.3%	0.0%
	レクリエーションホール	小学校英語活動	139	79	58.1%	39.2%	2.7%	0.0%

分科会後半	大ホール	言語力育成	570	174	21.9%	67.8%	9.2%	1.1%
	中ホール	小中一貫教育	284	74	31.7%	61.0%	4.9%	2.4%
	集会室	人権教育	152	62	33.9%	62.7%	3.4%	0.0%
	レクリエーションホール	食育	162	67	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	小ホール	就学前の育ち	145	49	22.0%	76.0%	0.0%	2.0%
	展示室	展示・ブース見学	333	94	26.6%	70.2%	3.2%	0.0%

分科会前半

○ 学力向上分科会

「学ぶ意欲と思考力を育てる

- 学ぶエンジンに火をつける - 」

立命館小学校 深谷圭助校長

漢字学習では、「漢字を考えながら解釈する」「漢字を関連付けて学習する」など、子どもたちの興味関心を育てる様々な工夫を紹介していただきました。また、小学校1年生からの辞書引き学習により、子どもたちが目を輝かせながら学習に取り組み、そのことが他の学習に対する探究心を育てることにつながっていく様子を、豊富な教育実践の中から、映像を通して教えていただきました。

子どもの学ぶ意欲がビデオから強く感じ取られた。先生の教える意欲も大切だと思った。/公私のちがいはあるが、公立ももっと魅力ある学校・授業にしていけるために新たな発想の展開と努力が必要だと感じた。

○ 特別支援教育

「校内の特別支援教育システムを考える

- 機能的に具体的に - 」

1 つ目は、豊津第二小学校から、学習レディネス検査と担任への気づきシートを活用し、全ての教員が全ての場所であらゆる方法で支援することを基本方針とした学校組織としての取組の報告、2 つ目は、片山中学校より、生徒指導委員会、いじめ・不登校委員会と連携した、人権委員会を中心とした特別支援教育の校内システムについての報告がありました。大阪府教育委員会支援教育課矢木克典主任指導主事より、「特別支援教育は、まずは子どもの困り感に気づくことからスタート。全ての子どもが参加できる授業づくり、集団づくりという原点に立ち返って学校全体の取組を進めていくこと。特別支援教育は学校全体の機能を高めていくものである。」と助言をいただきました。最後に、通級学級担当教員による「校内委員会の具体的な進め方」について寸劇での提案がありました。

それぞれの学校で工夫されていることが聞けてよかった。自分の学校でも使ってみたい。/具体的に会議の持ち方やその位置付け・個別シート等参考になった。



会場も参加！



○ いきいき元気アップ

「教師も元気！ 子どもも元気！」

1 つめは、教職員元気アッププラン事業でニュージーランドに派遣されたメンバーから現地の幼稚園・学校などを見学しての報告と吹田への7つの提言「確固たる学校経営・いい先生を育てる・個性を確立し、独立した教育など」。2 つ目は、幼稚園教育研究会から日ごろ幼稚園で取り組まれている手遊びや歌、体操などの紹介、3 つ目の報告は、小学校学研音楽部。今年度の活動紹介と歌。参加者も一緒に体操をしたり歌ったり、身体もリフレッシュしました。

元気アップ・パワーアップをもらいました。/子どもたちと一緒にやってみたいと思える実践で良かった。

○ 小学校英語活動「トライ!担任による英語授業」

1 つ目は、教育センター小学校英語研究グループによる3つの模擬授業提案。2 つ目は、「英語活動を身近に！ Let's enjoy English lesson！」のテーマで、高槻市立大冠小学校の具体的な取組の紹介を葛葉教頭先生よりいただきました。3 つ目は、大阪府教育委員会小中学校課土居指導主事より、「英語ノート」の活用についてのお話を聞きました。

前向きな気持ちになり、意欲・元気がでた。/何をねらいとしたらいいのか、また取組の見通しがつかめた。/これまで英語活動に対してもっていた不安がなくなった。

模擬授業



○ 学研・学校から

前半は、「明日から授業に役立つミニ模擬授業」として小学校学研国語部から「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「言語事項」の4つのミニ模擬授業が行われました。

後半は、竹見台中学校ブロックから「小中一貫教育推進における事務連携の取組 - 教員が元気で明るい学校に - 」をテーマに、きめ細かな学習指導充実に向けた取り組みと事務の簡素化・効率化に向けた取り組みについての実践報告がありました。

若い先生方が様々な研究を重ねて積極的に発表されている姿を見て、吹田の教育に明るい展望を持つことができた。/ 事務職員の取組により、少しでも多くの時間教員が子どもたちに時間がつかえるようになってほしいと思う。

分科会後半



模擬授業
(国語部)

○ 小中一貫教育

前半のパネルディスカッションでは、「小中一貫教育を語ろう」をテーマに、小中の交流の進め方、カリキュラム研究の進め方、生徒指導に関わることについて、小中学校教職員等8名のパネラーにより意見交流が行われました。また、後半では、教育センターの学校事務研究グループより、事務職員が行事や取組の連絡調整・情報交換等の役割を積極的に担うことにより各ブロックの小中一貫教育推進協議会の事務局機能を充実させることができるという提案をいただきました。最後に京都産業大学西川信廣教授より、学力問題において学校のできることで及び小中一貫教育の到着点は教職員の指導力向上にあり、小中それぞれの独自性、連続性を踏まえた一貫性のある指導が求められるというお話をいただきました。

小中それぞれの先生の意見を聞き、今後の小中一貫のための参考になった。小中一貫教育の中で事務職員が何ができるのかが勉強になった。今後1つでも実践していきたい。

○ 人権教育

「マイナスイメージの刷り込みにならない人権教育をめざした小中連携の取組～吹田市内での取組報告～」

第二中学校ブロックの小中連携した人権教育の取組報告と実際に教師を生徒役にした「中世の職人観を通して、差別を生む非合理性に気づかせる」を題材にした模擬授業が行われました。そのあと、大阪府教育委員会人権教育企画課滝澤主任指導主事より指導助言と「学校の組織的な取組について - 人権教育の指導の在り方について[第三次取りまとめより] - 」というテーマでご講演をいただきました。

とても興味深い報告や模擬授業をみせていただけてよかった。参考にして取り入れていきたい。/ 不思議だ、おかしいと思わせることが子どもたちの人権感覚を育てる上で大切だと感じた。



パネルディスカッション
「小中一貫教育を語ろう」



模擬授業(人権教育)

○ 食育

「子どもたちの豊かなこころを育む食育」

京都府立大学大学院 大谷貴美子教授

21 世紀の家族像は、「話さなくてもわかる家族」から「話をしなければわからない家族」に変わってきており、コミュニケーションが求められる。食事の時間は、家族に最も団樂の時間を提供してくれる場であり、食べ物は会話を弾ませるコミュニケーションツール・愛情の代償となるものであるとの話をいただきました。「食事によって、栄養だけでなく心が満たされていますか？」と投げかけをいただきました。

脳科学や心理学の方面からのお話もわかりやすかった。/ 今の時代の課題も良くわかり、なんとなく感じていた昔の子と今の子の感覚の違いも納得できた。

○ 言語力育成と授業改善

「言語力育成のためのさまざまな手立て」

1 つ目は、教育センター「国語力向上研究グループ」からの報告。気持ちを表現することばを豊かにするための「トラブル場面での対応学習」指導事例紹介と「話す・自己表現する力」を育てるための授業の提案、会場からは 4 つの学校の報告がありました。2 つ目は、吹田第三小学校から、小学校低学年児童に対する聴写テストによりつまづきの見られた子どもたちへの個別支援の取組の紹介がありました。最後に関西国際大学准教授成田信子先生からは、気持ちをあらわす「語彙」を豊かにしていくため、内面からの豊かさも大切であると助言をいただきました。

たくさんの学校が、ことばについて実践されていることを知り、感激した。/ 寸劇・指導案・具体物ありと多様な手立てでわかりやすかった。

こんな場面ありませんか？



言語力育成



就学前の引継ぎの課題

○ 就学前の育ち

吹田市の異年齢学級児保育」

東井寺幼稚園より、「ようちえんだいすき～自分も友達も大切にする子どもを育てる～」のテーマで、異年齢学級保育の中で大切にしていることや具体的な子どもの姿を通した報告がありました。

「就学前の療育の現状と幼小引継ぎの課題」

就学前の障がいを持っている子どもの通園している機関の紹介のあと、「幼小の引継ぎについて」ロールプレイを通して皆さんに課題を投げかけ、会場からも意見をいただきました。

幼稚園の様子がとてもよくわかった。4・5・6 歳とこういうふうにつながっていけば小 1 プロブレムも少し解消されるかも。/ 小学校への引継ぎには悩むこともあるので、小学校の先生の要望も聞けてよかった。



展示報告



各研究会の取組がよくわかった。お役立ち情報・お持ち帰りプリントもあってよかった。/ いろいろなコーナーがあって、担当の先生からも話を聞けて盛りだくさんでよかった。

詳細は、後日報告集を各学校・園宛（各学年 1 冊程度）に送付いたしますので、是非ご覧下さい。